

鹿角市市制施行50周年
第96回全日本学生スキー選手権大会

新型コロナウイルス感染対策ガイドライン

I 基本事項

1 はじめに

第96回全日本学生スキー選手権大会は、新型コロナウイルスの感染を最大限に防止しながら運営する必要がある。そのためには、参加選手、大学関係者、学連関係者、チームスタッフ、競技役員等すべての関係者の理解と協力が必要である。

このガイドラインは、SAJが発行している「新型コロナウイルス感染対策ガイドライン(第3版)」及び「SAJ競技会における感染症対策ガイドライン(第4版)」を参考にしながら、基本方針の他に参加者の遵守事項、施設管理の在り方、運用管理等について定め、安心・安全な大会を運営することを目的に作成した。

2 新型コロナウイルス感染症の基本事項

新型コロナウイルスの感染経路は、くしゃみや喀痰などの飛沫が目や鼻、口などの粘膜に付着したり、呼吸器に入ることによって感染する飛沫感染が主体と考えられている。また、喀痰や鼻水などの体液およびそれらで汚染された環境に触った手で目や鼻、口などの粘膜に触れることによって感染する接触感染もある。

このことから、これら2つの経路の感染予防策を徹底する。有症者が感染伝播の主体であるが、無症状病原体保有者からの感染リスクもあるため、常に予防を意識する。

①飛沫感染予防

- ・選手、スタッフ、観客は必要に応じてマスクを着用する。
- ・咳エチケットを徹底する。
- ・人と人が対面する場所では可能な限り、パーテーションやビニールシートを設置する。
- ・飛沫は空気中を漂わず、空気中で短距離(1~2m)しか到達しないため、人と人との距離(1~2m四方)を確保する。
- ・屋内では換気を徹底する。

②接触感染予防

- ・流水と石けんによる手洗いもしくはアルコール消毒薬による手指衛生の励行。
- ・アルコールや抗ウイルス作用のある消毒剤含浸クロスで環境(テーブル、ドアノブなど高頻度接触部位)の清拭消毒を行い、清掃を行う場合は、手袋、マスクを着用する。

③換気

- ・換気については、開窓による換気を2方向以上で行い、風の流れができるようにする。

II 参加者の遵守事項

- 1 大会参加にあたり以下を周知し、理解を求める。
大会の前に下記事項に該当する場合は、参加を見合わせること。
 - ・発熱（37.5℃以上）がある。
 - ・せき、のどの痛みなど風邪の症状がある。
 - ・だるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある。
 - ・嗅覚や味覚の異常がある。
 - ・体が重く感じる、疲れやすい等の症状がある。
- 2 感染者、病原体保有者、濃厚接触者等の参加要件については、P 7の「3 大会への参加要件」を参照のこと。
- 3 参加者においては「健康管理チェックシート」、もしくは「健康状態の確認メール」で提出すること。
- 4 3で提出されたシートについては、個人情報保護を遵守し、大会事務局が責任者として管理する。
- 5 インターネットやスマートフォンによる受付を推進し、現金の授受などが生じないような準備を行う。

Ⅲ施設管理

- 1 受付では、手指消毒剤を用意し、対面接触によるリスク軽減のためアクリル板・透明ビニールカーテン、接触感染予防のための手袋を準備して対応する。
- 2 洗面所・手洗い場所
 - ①手洗い場には石鹸を用意する。
 - ②正しい手洗い方法について掲示をする。
 - ③手洗いに使用するペーパータオルを用意する。
 - ④手洗いが難しい場合は、手指消毒剤を用意する。
 - ⑤トイレの蓋を閉めてから汚物を流すよう掲示する。
- 3 更衣室
 - ①出入口に手指消毒剤を設置する。
 - ②1～2 mの対人距離を保つようなスペースを確保する。
 - ③対人距離が確保できるよう、一度に入室できる利用者の数を設定する。
 - ④ロッカー使用時には各選手が使用開始前、使用終了後に手指消毒する。ドアノブなど複数人が接触するものは定期的に清拭消毒する。
 - ⑤換気に配慮する、窓や扉が2か所以上なく、換気が困難な場合にはサーキュレーター等を使用する。
 - ⑥更衣室入口に手指消毒剤を用意する。
 - ⑦更衣室のロッカーは使用前後に清拭消毒を行い、ロッカーの使用数を制限することを原則として、接触部位が少なくなるような対策をとる。
- 4 チューンナップスペース
 - ①出入口に手指消毒剤を設置する。
 - ②1～2 mの対人距離を保つようなスペースを確保する。
 - ③ドアノブなど複数人が接触するもの、また各種共有物は定期的（開場前・休憩中

・大会終了後、等)に消毒液含浸クロスにて清拭消毒する。

④換気に配慮する、窓や扉が2か所以上なく、換気が困難な場合にはサーキュレーター等を使用する。

5 選手待合室

①1～2mの対人距離を保つようなスペースを確保する。

②出入口に手指消毒剤を用意し、移動前後での手指消毒を行う。

③手すりなど複数人が接触するものは定期的(開場前・休憩中・大会終了後、等)に消毒液含浸クロスにて清拭する。

6 プレススペース

①1～2mの対人距離を保つようなスペースを確保する。

②スペース出入口に手指消毒剤を用意する。

③カメラや機材を清拭できるように、消毒液含浸クロスを用意する。

④机、椅子など複数人が接触するものは定期的(開場前・休憩中・大会終了後、等)に清拭消毒する。

⑤机は対面しない着座配置とする。

7 ウォーミングアップ・クールダウン会場

①1～2mの対人距離をとって行動できるような動線管理、入退場人数管理を設定する。

②出入口に手指消毒剤を設置する。

③ドアノブなど複数人が接触するものは定期的(開場前・休憩中・大会終了後、等)に清拭消毒する。

8 競技会場

①入場から退場時までの全ての場面で、1～2mの対人距離をとって行動できるような動線管理、入退場人数管理をする。

②競技時以外はマスク(防寒・暴風のためのマスクを着用している場合はそれでも可)着用とする。

③外したマスクは自身で管理できるよう袋に入れること。

④大きな声での会話や指導をしないこと。

⑤飲食については、指定場所以外で行わないこと、また飲食物の共有をしないこと。

⑥リフトに乗車する際は、マスクを着用し、対面での会話は控えること。

9 個別取材場所

①1～2mの対人距離を保つようなスペースを確保する。

②換気に配慮する。

③取材スタッフはマスクを着用し、取材対象選手と1～2mの距離をとること。

10 ゴミの廃棄

①鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用する。

②マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗う、または手指消毒をする。

11 清掃・消毒

①消毒については用途に応じて消毒薬を選択する。

②通常の清掃後に、不特定多数が触れる環境表面を消毒する(1日数回)。

12 救護室の準備

- ①十分な広さのある救護室を確保し、医師・保健師・看護師いずれかにすぐに連絡がとれる体制とする、発熱者が発生した場合などに適切な対応ができるようにする。
- ②医療用個人防護具（フェイスシールド・ゴーグル・手袋・マスク・白衣など）を準備し、救護者や体調不良者の対応にはこれらを着用して行う。
- ③発熱者が出た場合、隔離できる施設（コンテナハウス等）を確保する。

13 コーチの活動について

- ①コーチの活動に関して、用手接触を伴う運動は控える。
- ②運動指導や救急対応（テーピング等を含む）で接触する必要がある場合には、マスクもしくはフェイスシールドを着用し接触前後で手指消毒を行う。

14 飲食について

- ①参加者およびスタッフが食事を摂取する際には個別に摂取する。やむを得ない場合には1～2mの十分な距離をとり、対面しないように摂取する。また食事の会話は控えるようにする。
- ②食事を摂取する場所が限定され、人が密集しないように配慮する。対面式のテーブルなどでは、向き合って座ることは避けるか、一方向のみの使用とする。

15 宿泊について

- ①感染した場合のクラスター発生防止のため、接触者を限定できるようにする。
 - ②複数人で宿泊の際にはメンバーが固定となるようにする。
 - ③食事の同席者や着席位置を一定にする。
 - ④ビュッフェ形式の食事の場合は取り分け用のトングやスプーンに注意が必要である。とりわけ後に手指消毒を実施する、もしくは自身のフォークで取り分けを行う。
 - ⑤トイレ使用時には男性も着座で排泄し、蓋を閉めてから汚物を流すようにする。
 - ⑥リネンは定期的に交換を依頼する。
 - ⑦トレーニング用品を第三者と共有する場合には、使用前後で手指消毒を徹底する。
 - ⑧感染者が発生した場合に備え、隔離部屋を確保する。
- ※宿泊施設においては基本的に全日本旅館・ホテル協会作成のガイドラインに従って対応する。

16 移動について

- ①すべての乗り物では、乗る前後で手指消毒を行う。
- ②不特定多数が触れる場所は清拭消毒する。
- ③電車・飛行機内での留意点
 - ・大声での会話は避けるようにする。
 - ・個人の座席を離れる頻度を最小限にする。
 - ・食事前後、トイレ使用等離席前後に手指消毒を行う。
 - ・持ち物の共有（貸し借り）をしないようにする。
 - ・トイレ使用時には男性も着座で排泄し、蓋を閉めてから汚物を流すようにする。また、手洗いを徹底する。
- ④バス、タクシー、レンタカーでの留意点は以下
 - ・窓の開放（できれば2方向）、外気循環の使用、乗車人数の制限、可能であれば運転席前後のパーテーションがある車両に乗ることが望ましい。

IV運用管理(選手・関係者)

1 TCM、運営スタッフ会議

- ①可能な限りオンラインでの会議とする。
- ②会議を開催する場合には、常時マスク着用とし、出入口での手指消毒を徹底する。
- ③座席の間隔を十分に取りゆとりをもった配置とする。
- ④会議場内で飲食はしないこと。
- ⑤換気に配慮する。

2 入場・受付時の対応

- ①ガイドラインⅡ参加者の遵守事項の1. に該当する参加者については参加を見送るようにする。
- ②「マスクの着用」「大声での会話」「対面での会話」等飛沫感染予防について注意を促す。
- ③入場時に手指消毒剤を使用させ、「健康管理チェックシート」を確認し受理する。
- ④必要に応じて非接触体温計を使用して検温し、発熱者であれば入場を制限する。

3 マテリアルチェック場所での対応

- ①検査者はマスク及び手袋を着用する。
- ②手袋着用前後で手指消毒剤による消毒を行う。
- ③机を使用する必要がある場合には、必要に応じて清拭消毒を行う。

4 ウォーミングアップ・クールダウン時の対応

- ①選手ごとに「時間帯を分ける」「使用スペースを分ける」など、1～2mの距離を保てるようにする。
- ②対人距離が保てていればマスク着用は強制しない。ただし、対面での会話は控え、咳エチケットに留意すること。また、大きな声での会話や指導はしないよう周知する。
- ③アルパス2階ランニングコースでウォーミングアップを行う場合には、時計と反対周りの一方通行とし、他者と前後に並んで走るのは避け、並走、もしくは斜め後方に位置を取る。
- ④コーチは常時マスク着用とし、大声での指導や近い距離での会話は避ける。
- ⑤汗は素手で拭わず、タオルで拭き取るようにする。(汗では感染しないが、素手で顔の汗を拭くと手についたウイルスで接触感染を起こすリスクがある。)

5 競技時の対応

- ①アルペン競技のコースインスペクションの際は、ゼッケンNO等により選手ごとに「時間帯を分ける」「待機スペースを設ける」など、1～2mの距離を保てるようにし、選手・コーチは常時マスクを着用する。また、大声での指導や近い距離での会話は避ける。
- ②選手が競技前にマスクを外す場所をあらかじめ決めておく。競技前に外したマスクは、ビニール袋等の自身のケースで保管することとし、第三者が直接触れないよう徹底する。
- ③スタート地点にいるコーチ、運営スタッフはマスクもしくはフェイスシールド(防寒・暴風用のフェイスマスクと、ゴーグルやサングラスでも可)を着用し、近い距離での会話を避ける。

- ④ スタート地点における各種共用物は、選手が素手で触れていなければ一選手ごとの清拭消毒は不要である。
 - ⑤ 運営スタッフは常時マスク着用とする。筆記用具やトランシーバーの共用はしないこと。
 - ⑥ コーチは常時マスク着用とし、大声での指導や近い距離での会話は避ける。
 - ⑦ 競技終了後にゴールエリア等での滞留は避け、監督・コーチ・チーム関係者との握手やハイタッチ等の接触を行わない。
 - ⑧ 呼吸が落ち着くまでマスクの再装着は不要であるが、対人距離を確保し咳エチケットを守る。
 - ⑨ 唾液や鼻水などの体液が付着したゴミは、ビニール袋に入れて密閉し破棄する。
 - ⑩ クロスカントリー競技では、先行する選手の飛沫が顔に付着している可能性があるため競技終了後の洗顔（顔の清拭）を推奨する。
 - ⑪ コース設営・整備のスタッフは常時マスクを着用する。また、コースサイドで待機中は、スタッフ同士での近距離・対面での会話は避ける。
 - ⑫ ジャンプ競技では、競技以外は必ずマスクを着用すること。自分の競技直前にマスクを所定のゴミ箱に捨て、ブレイキングトラックで係員から新しいマスクを受け取ること。
 - ⑬ 競技中の選手の転倒やコースアウト等で救護が必要になった場合の救護スタッフは、マスクを着用する。
- ※ここに記載以外の競技中における感染対策については、SAJ 派遣の競技役員の指導に従うこと。

6 インタビュー時の対応

- ① 選手とインタビュアーは1～2mの対人距離をとる。
- ② 共有マイクは、都度清拭消毒をする。

7 式典・表彰式の対応

- ① 開会式及び閉会式は参加者を限定し簡易な形式で実施する。
- ② 授与者、表彰者ともに、メダル・トロフィー等の授受前に手指消毒を行う。
- ③ 個人の賞状及びメダルは、机上にあるものを自ら取り上げて表彰台に上がる。
- ④ 握手やハグは行わない。

8 競技終了後の対応

- ① 参加者全員が一斉に退場しないように時差を設けて退出する。
- ② ミーティング・懇親会等を行わないよう周知する。
- ③ 大会終了後2週間以内に「新型コロナウイルス感染と診断された」場合には、実行委員会に報告するように周知する。

V 運用管理(観客)

1 入場・受付時の対応

- ① ガイドラインⅡ参加者の遵守事項の1. に該当する観客については観戦をお断りする。

2 会場内での対応

- ① 会場内では常に1～2mの対人距離を保つよう指導する。

- ②密を避けるため、競技関係者以外のアルパス内及び競技会場の建物内への入場を規制する。トイレは、屋外に設置する仮設トイレを使用すること。
- ③「マスクの着用」「大声での会話」「対面での会話」等飛沫感染予防について注意を促す。
- ④応援可能エリアを設置し、選手や大会関係者と接触しないようにする。
- ⑤飲食については、指定場所以外で行わないこと。

VI選手・関係者の皆様を守っていただきたいこと

1 マスクの着用について

- ①選手は競技中・ウォーミングアップ・クールダウン時を除いて、常時マスクを装着する。（屋外においては防寒・暴風のためのフェイスマスクやネックウォーマー等でも可。待機時間や休憩等屋内で過ごす際にはマスクが望ましい）
- ②ウォーミングアップ後や競技直後、呼吸が落ち着くまでマスクは装着しなくても良いが、荒い呼吸は飛沫が多くなり感染リスクが増大するため、対人距離や咳エチケットに留意すること。
- ③競技役員・コーチ等、選手の近くで活動する者は常時マスクを着用すること。マスクを外した選手と会話することで目の粘膜に飛沫が飛ぶ可能性を考慮し、フェイスガードやゴーグル、サングラス等も装着することが望ましい。
- ④マスクが汚染や水濡れ等で使用できなくなることを考慮し、替えを持参すること。
- ⑤使用済のマスクは会場で破棄せず、自身で持ち帰ること。

2 手指消毒について

- ①更衣室、トイレ、洗面所等各エリアに出入りする前後での手洗い・手指消毒をすること。
- ②競技用の手袋を装着しながら共用物に触れると予想されるため、手袋を装着したまま顔には触れないよう注意する（接触感染予防）。
- ③目・口・鼻の粘膜からの感染リスクがあるため、ゴーグルやフェイスマスク、ヘルメットは清潔に管理し、装着前後で手指消毒を行うこと。
- ④競技中・練習中にスキー板やボード、ウェアに飛沫が付着している可能性があるため、着脱前後で手指消毒を行う。特に手袋着脱前後は注意する。
- ⑤共用物（ドアの取っ手、自販機のボタン、椅子、テーブル等）に触れる前、触れた後は手指消毒を行う。

3 大会への参加要件

- ①有症状の感染者
 - ・発症日から7日間経過し、かつ症状軽快後24時間経過している場合、8日目から参加可能。ただし、入院している場合には、発症日から10日間経過し、かつ、症状軽快後72時間経過した場合には11日目から参加可能とする。
- ②無症状の感染者(病原体保有者)
 - ・検体採取日から7日間経過した場合には8日目に参加可能とする。5日目の検査キットによる検査で陰性を確認した場合には、5日間経過後（6日目）に参加可能とする。
- ③濃厚接触者
 - ・最終曝露日（陽性者との接触等）から5日間以上経過していること。
- ④次の症状を認める者は参加を見合わせる。

- ・発熱(37.5℃以上)
- ・せき、のどの痛みなど風邪の症状。
- ・だるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)。
- ・嗅覚や味覚の異常。
- ・体が重く感じる、疲れやすい等の症状。

⑤PCR検査

選手、チームスタッフ、大会役員等は、大会参加前72時間以内(やむを得ない事情がある場合は120時間以内)にPCR検査での陰性を確認すること。

4 その他大会当日の留意事項について

- ①大声での会話や指導は避け、常に1～2mの対人距離をとって行動する。
- ②入場時検温にて発熱が認められた場合は、大会救護担当者の指示に従う。
- ③入場前に体調不良となった場合は、会場内に入場せず帰宅するか、判断に迷う場合は入場口の大会スタッフに申告する。
- ④会場内で体調不良となった場合は、近くの大会スタッフに申告し、移動せずにその場で指示を待つ。
- ⑤頻回の入退場は控えること。
- ⑥使用禁止エリアへの立ち入りはしないこと。(大会前後での消毒範囲や、大会終了後に陽性者が発生した場合の接触部位特定に影響を及ぼすため)
- ⑦私物は可能な限り持参した袋に入れて管理すること(目の届かない間に他者の飛沫がかかったり、自身の飛沫が付着した私物で環境を汚染するリスクを最小限にするため)。
- ⑧選手は、自分の競技終了後、速やかに退場すること。
- ⑨大会終了後、集合しての打ち上げやミーティングは禁止する。
- ⑩大会主催者・施設管理者が定めたその他の措置・指示に従うこと。

5 大会終了後

大会終了後2週間以内に体調不良となり「新型コロナウイルス感染症」の疑いが生じた、または発症した場合、それぞれの居住地のガイドラインに従って報告すること。